

「募金・協賛推進特別委員会」第12回会議 結果概要

1 日時

令和5年3月29日(水)15:00～ 16:00

2 場所

滋賀県大津合同庁舎7-D会議室

3 出欠状況

委員9名中8名出席

4 議事概要

報告事項

- (1) わたSHIGA輝く国スポ・障スポ募金・企業協賛に係る令和4年度取組実績について
事務局から資料1の説明の後、以下のとおり発言・質疑応答があった。

<委員>

1ページのところで、今年は昨年度より1億円増えたということで、非常に喜ばしい。件数では30件くらい減っているため、大口かと思う。金額を見ると、企業・団体で増えていると思うが、企業名や金額など大きいところあれば教えていただきたい。

<事務局>

今年度は開催決定という節目の年であったこともあり、県内の主要企業、滋賀銀行や関西みらい銀行などから大口の寄附をいただき、このような結果となったところ。

<委員>

他府県を見て、来年度やこの先増えていくと見込んでいるか。

<事務局>

来年度についても、県内の大企業や、県外でも近江商人ゆかりの大企業などあるため、そこをまわりながら、大口の寄附ももらえるようにしていきたい。

<事務局>

他府県の状況を見ていると、開催年近くになると、2ページにある企業協賛の実績がかなり増えてくる。本県では今年度立ち上げたばかりであり、2,000万円程度であるが、これ

をもっと充実させていきたい。

<委員>

1ページの上の表の見方だが、右欄に用途とあるが、これはこの用途に使ったということか。

<事務局>

こちらについては、寄附を頂く際に用途を選べるようになっており、それぞれ用途別に寄附額を集計したもの。今後、これらの用途に充当していくことになる。

<委員>

そうであれば、6ページに寄付金・協賛金を活用した事業展開というのがあるが、ここにある数字と1ページ目の数字はどうリンクするのか。6ページの数字は令和4年度にということではなく、過去にこれだけ充当したという数字か。

<事務局>

毎年度頂いた寄附は一度、国スポ・障スポ基金に積み立て、毎年度その一部を計画的に充当しているところであり、必ずしもその年の寄附額と充当額は一致するものではない。

<委員>

現在、4億円程度の寄附が集まっているが、そのうち充当している額はどの程度か。

<事務局>

これまでに2億5千万円程度を充当している。今年度末の予定で残り1億5千万円程度となり、こちらは来年度以降に活用させていただく。

審議事項

(1) わたSHIGA輝<国スポ・障スポ募金・企業協賛に係る令和5年度取組計画(案)について

<委員>

目標金額というのはあるか。

<事務局>

目標額は、募金、協賛ともに設けていない。各年度についても、具体的な数字は特に掲げず、できるだけ多くの方から沢山の寄附・企業協賛をいただけるよう取組を進めているところ。

<事務局>

先催県の実績を見ると、寄附と協賛で約6億円から7億円を集めている。我々としてもそのくらいはいきたいし、更にどこまで伸ばせるかというのが目標である。

<委員>

2ページの下段、2企業・団体の寄附・企業協賛の依頼ということで、多くの企業が参画する経済団体・各種団体の会合の場を活用して説明とある。2025年は大阪関西万博があり、大阪商工会議所や万博協会から組織を使って色んな機運醸成をしてくれ、何をしてくれという話がどんどんきているが、ネットでの連絡が多い。地元の国スポ・障スポであるので、フットワークを軽くして、説明にきていただいた方が伝わりやすい。これから色々な総会など、シーズンに入るので、少し時間をもらって直接話していただく方が伝わり方ははるかに違うだろう。

<事務局>

我々も4月から広報・県民運動に係る組織も増強しているので、フットワーク軽く、なるべく直接、皆様方に我々の思いも伝えながら、御説明していきたい。また御相談させていただきたいと思うので、よろしくお願ひしたい。

<委員>

今、企業や団体に対して、フットワーク軽くという話があったが、実績を見ると、今年度の個人の寄附は25件で832万円、令和3年度は12件で400万円であった。一般の方に国スポ・障スポを知ってもらうために、個人の方にもう少し広く啓発して、寄附を沢山いただいくことも必要だろう。令和4年度の個人の寄付額を単純に件数で割ると、1件当たり33万円ほど、令和3年度は1件当たり34万円となり、個人としてはかなり高額な印象がある。これは押しなべてその程度か、お一人、お二人が大きく寄附されたのか。

<事務局>

1点目の、個人の寄附をもっと啓発してはということについて、今まで個人の皆様に寄附をお願いする際は、イベントに出向いてお願いするケースが多かった。御承知のとおり、ここ2、3年は新型コロナの影響でイベントがどんどん中止されている状況下で、なかなか個人の方から集めるというのが難しい状況であった。令和4年度は、前年より増えているが、そういう要素があるだろうと思う。ちなみに、国スポの認知度を毎年測っているが、昨年度は38%であったが、今年度の最新の状況では46%となり、8ポイントほど上昇している。これまで40%前後に留まっていたが、ようやく40%を超えて半分近くまできた。まだまだこれで十分とは思っておらず、今日で914日前となるが、近づけば近づくほど、機運を盛り上げていかなければならないと考えている。来年度はそのあたり重点的にやっていきたい。

2点目の一人当たりの金額の件については、高額を納めて頂いている方がおられるため、平均が引きあがっている。

<委員>

個人から寄附をいただくために、一度寄附いただいた方に再度アプローチしてはどうかという話があり、一度寄附すると定期的に色んなメニューが届いたり、直接電話があったりもすることがある。それくらいアプローチすると寄附しようかという気持ちにもなるのではないか。

<事務局>

そのような御意見がある一方で、次々くと御批判をいただく可能性もある。県の中でも色々な大きな事業が控えており、寄附などについては、総務部に新しい組織を作って交通整理をしようという取組を来年度から始めることになった。そういうものに我々の寄附も乗りながら、あまり負担感が出ないように、押し付けにならないようにうまくやっていきたいと思う。引き続き、御指導よろしくお願ひしたい。

<委員>

募金グッズは、収益は出ているのか。

<事務局>

実績としてあげている金額については、一部委託販売の手数料などもあるが、基本的に売上の全額となっており、仕入れの原価と比べ、多少の利益は含まれているところ。

<委員>

募金グッズで一番収益が上がっているのは何か。

<事務局>

職員もつけているが、ピンバッチがあり、1個200円と比較的手頃なところ。大量発注により、製造原価も安く抑えられており、一番貢献している。例えば、競技団体の方から、大会参加者への記念品として数百個まとめて発注いただくこともある。更に販売を進めていきたい。

(参考配付の資料について、事務局より説明)

<委員>

これから企業などを一生懸命まわられるのであれば、パンフレットもしっかりとしたものを作られるのが良いだろう。

<事務局>

しっかりとした冊子をつくってやっていきたい。

<委員>

リーフレットに桐生選手が載っていないが、理由は。

<事務局>

桐生選手を載せるかどうかという個人で選んだのではなく、プロポーザルのデザインコンペで決定している。決定したデザインが水泳の選手と車いすの選手というような配置になっており、競技を変えてしまうとバランスが崩れることもあり、基本は業者の提案の中で、水泳なら誰が良いかといった検討をして、このようになった。主に、国体や障スポに出場して、御貢献いただいている選手を中心に選んだ。

<委員>

インタビューも表紙を飾っている方に限定して行ったということか。

<事務局>

そのとおり。

<委員>

このリーフレットはどのあたりに置かれているか。

<事務局>

市町でも開催に向けた準備を進めており、市町にお渡しして、そこから広めていただいたりしているところであり、基本的には市町の公共施設などに置いてもらっている。

お声かけいただければ、必要部数を送らせていただく。

<委員>

パンフレットの寄附制度のところ、税制面でのメリットの記載があるが、個人は無いのか。

<事務局>

これは企業向けのものであり、法人税法について記載しているが、個人についても同様に、ふるさと納税と同じような控除制度がある。

<委員>

認知度について話があったが、栃木は昨年開催されたが、最終の認知度はどの程度か。

<事務局>

直近の大会はおそらく調べていないと思うが、以前に調べたのは福井国体の時であったが、福井県は非常に高く、3年前くらいの時でも70%くらいあり、最終的に85%あたりまでいっていたと思う。

我々も福井国体に行ったが、県民の皆さんの盛り上がりを感じた。それに比べると、その後の茨城県と栃木県は、現場の肌感覚ではあるが、福井県ほどの盛り上がりは感じなかったところであり、おそらく認知度もそれほど高くなかったのではないかと思う。駅前などにはポスターや広告物があるが、少し離れると国体を開催している雰囲気が無いようなところもあったので、福井県ほど高くなかったのではないか。

<委員>

そのあたりの原因は調べたりされているか。弊社でもずっと国体取材しており、たしかに栃木県は盛り上がっていなかった。正直なところ、栃木テレビの取材は少なく、県民の盛り上がりも無く、会場もそれほど人が入っていなかったのが現状だった。

最終どのあたりまでもっていくのか、寄付金額もそうだが、ある程度目標が無いと立ち上がっていかないのでは。それは県民への意識で言えば、個人や企業・団体の寄附件数よりも、本当は据え置き募金箱やグッズで盛り上げていかないといけない。グッズの販売や、各企業に募金箱を置いてもらい競い合ってもらおうといった感じが出てこないといけないではと思う。

パンフレットは正直ゴミになってしまう。SDGsの観点で考えると、良いパンフレットを作っても、それを受け取るかどうかを考えると邪魔になってしまう。それをステッカーにするのか、もしくはティッシュにQRコードを入れてHPへ誘導するといったことも考えて展開していかれる方が良いのでは。

<事務局>

栃木県の盛り上がりについては、直前までコロナで延期・中止が続き、栃木大会自体も開催できるのかどうかという中で、入場者数も当初予定からかなり抑えた状態で何とか開催されたというところであり、そういうところも一因としてあるかと思う。

企業の協力については、我々として企業の皆さんに協力していただきたいメニューのようなものを作って、例えば募金箱を設置していただく、ストラップやピンバッチをつけていただく、名刺にシールを貼っていただくとか、そういったお願いしていく草の根的な取組も始めていきたいと思っている。その際は御協力をよろしく願います。

パンフレットの紙媒体については、なかなか迷うところである。今年の栃木県でも大会のプログラムなどは電子化されており、そういう流れにあるのかなと思っている。我々も大会プログラムは電子化でいくことを考えているが、広報物を全て電子化でいけるのか、ということなど、検討が必要と思っている。御指摘の趣旨も踏まえ、今後の対応を考えていきたい。

<委員>

選手の方にインタビューなど取材を行うなど、先ほどのリーフレットに載っていない方々をどうやってPRするのかとなると、申し訳ないところがあり、どこまで説明するのかというところがある。そのあたりの配慮も考えていただけると、取材もしやすいし、動きやすいところ。

<事務局>

どういう工夫ができるか考えてみたい。

<委員>

審議事項については、承認することとし、次回の総会で報告いただくこととする。